

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

水稻海外飛来性害虫の発生状況（技術情報 7 号）について（送付）

水稻におけるコブノメイガ、セジロウンカの発生が平年よりやや多くなっています。今後、被害が懸念されますので、発生に留意して防除指導をお願いします。

記

1. コブノメイガの飛来・発生状況（別紙参照）

本渡市の予察灯では、6 月下旬～7 月上旬まで断続的に飛来を確認し、主飛来は 6 月 26 日頃と考えられる（表 1）。また、7 月中下旬における発生予察巡回調査結果から、本田での発生は昨年より多く、平年よりやや多い（表 2）。6 月 26 日を主飛来日として、有効積算温度から発蛾最盛日を予測し、表 3 に示した。ただし、今後の気温次第では発蛾最盛日が前後するため、圃場での発生状況に注意する。

2. セジロウンカの飛来・発生状況（別紙参照）

6 月中旬から断続的な飛来が確認され、7 月 3 日～6 日、11 日～13 日が主飛来と考えられる（表 1）。また、7 月中下旬における発生予察巡回調査結果から、本田での発生は昨年より多く、平年よりやや多い（表 2）。

3. 防除対策

1) コブノメイガ

ア. 6 月下旬の主飛来による第 1 世代幼虫の被害が認められるが、現在、コブノメイガは老齢幼虫から蛹であるため防除効果が低く、防除は第 2 世代幼虫を対象に行う。

イ. コブノメイガに効果のない育苗箱施薬剤（フィプロニルまたはスピノサドを除く）を用いた圃場、または早植水稻圃場で発生が多い圃場では、防除が必要である（要防除水準：第 1 世代幼虫期において被害株率 20 % 以上）。

ウ. 粒剤で防除を行う場合は発蛾最盛期、水和剤・乳剤・粉剤で防除を行う場合は発蛾最盛期 7 日後に散布する。

エ. 今後の気象条件により発蛾最盛日は前後するため、圃場内をよく見回り、発蛾最盛日を確認のうえ防除を行う。

2) セジロウンカ

ア. 育苗箱施薬剤を使用していない圃場、または早植水稻圃場で発生が多い圃場では、防除が必要である（要防除水準：飛来世代成虫 6～10 頭/株）。

イ. 普通期水稻において育苗箱施用剤を使用している圃場では、防除の必要はない。

※予察灯、ネットトラップによる飛来性害虫の調査データは、熊本県病虫害防除所のホームページに掲載しています（ホームページアドレス <http://www.jpnp.ne.jp/kumamoto>）。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター
生産環境研究所病虫害研究室
予察指導係（病虫害防除所）

担当： 樋口

TEL096-248-6490

FAX096-248-6493